

### 3) 外来種の指定状況について

下記のホームページに掲載されているリストを参照してください。

#### 外来生物法 特定外来生物

<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list.html>

#### 沖縄県対策外来種リスト

<https://www.pref.okinawa.jp/site/kankyo/shizen/hogo/taisakugairaisyu-list.html>

#### 生態系被害防止外来種リスト

<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/iaslist.html>

## 世界の侵略的外来種ワースト 100 陸上植物

	和名	学名	沖縄県内の分布
1	アカキナノキ	<i>Cinchona pubescens</i>	栽培
2	アメリカクサノボタン	<i>Clidemia hirta</i>	—
3	イタドリ	<i>Polygonum cuspidatum</i>	栽培
4	エゾミソハギ	<i>Lythrum salicaria</i>	栽培
5	オオバノボタン	<i>Miconia calvescens</i>	栽培
6	オープンティア・ストリクタ	<i>Opuntia stricta</i>	栽培
7	カエンボク	<i>Spathodea campanulata</i>	栽培
8	カユプテ	<i>Melaleuca quinquenervia</i>	栽培
9	キバナシュクシャ	<i>Hedychium gardnerianum</i>	栽培
10	キバンジロウ(テリハバンジロウ)	<i>Psidium cattleianum</i>	栽培、逸出
11	キミノヒマラヤキイチゴ	<i>Rubus ellipticus</i>	—
12	ギンネム	<i>Leucaena leucocephala</i>	逸出
13	クズ	<i>Pueraria lobata</i> var. <i>lobata</i>	—
14	サンショウモドキ(アカツユ)	<i>Schinus terebinthifolius</i>	栽培
15	セイロンマンリョウ	<i>Ardisia elliptica</i>	栽培、逸出
16	タマリクス・ラモシッシマ	<i>Tamarix ramosissima</i>	—
17	ダンチク	<i>Arundo donax</i>	自生
18	チガヤ	<i>Imperata cylindrica</i>	自生
19	ハギクソウ	<i>Euphorbia esula</i>	—
20	ハリエニシダ	<i>Ulex europaeus</i>	—
21	ヒマワリヒヨドリ	<i>Chromolaena odorata</i>	帰化
22	フランスカイガンショウ	<i>Pinus pinaster</i>	—
23	プロソピス・グランドゥロサ	<i>Prosopis glandulosa</i>	—
24	ホザキサルノオ	<i>Hiptage benghalensis</i>	(絶滅)
25	ツルヒヨドリ	<i>Mikania micrantha</i>	帰化
26	アメリカハマグルマ (ミツバハマグルマ)	<i>Sphagneticola trilobata</i>	栽培、逸出
27	ミモザ・ピグラ	<i>Mimosa pigra</i>	—
28	ミリカ・ファヤ	<i>Myrica faya</i>	—
29	モリシマアカシア	<i>Acacia mearnsii</i>	栽培
30	ヤツデグワ	<i>Cecropia peltata</i>	栽培
31	ランタナ	<i>Lantana camara</i>	栽培
32	リグストルム・ロブストゥム	<i>Ligustrum robustum</i>	—

日本の侵略的外来種ワースト 100 維管束植物

	和名	学名	沖縄県内の分布
1	アカギ	<i>Bischofia javanica</i>	栽培、野生
2	アレチウリ	<i>Sicyos angulatus</i>	—
3	イタチハギ	<i>Amorpha fruticosa</i>	栽培、逸出
4	イチビ	<i>Abutilon avicennae</i>	栽培、逸出
5	オオアレチノギク	<i>Conyza sumatrensis</i>	帰化
6	オオアワダチソウ	<i>Solidago gigantea sub. serotina</i>	—
7	オオオナモミ	<i>Xanthium occidentale</i>	帰化
8	オオカナダモ	<i>Egeria densa</i>	栽培、逸出
9	オオキンケイギク	<i>Coreopsis lanceolata</i>	栽培、逸出
10	オオフサモ	<i>Myriophyllum aquaticum</i>	栽培、逸出
11	オオブタクサ(クワモドキ)	<i>Ambrosia trifida</i>	帰化
12	オニウシノケグサ	<i>Festuca arundinacea</i>	栽培、逸出
13	外来種タンポポ種群	<i>Taraxacum sp.</i>	帰化
14	カモガヤ	<i>Dactylis glomerata</i>	帰化
15	キショウブ	<i>Iris pseudacorus</i>	栽培
16	コカナダモ	<i>Elodea nuttalli</i>	—
17	シナダレスズメガヤ	<i>Eragrostis curvula</i>	栽培、逸出
18	セイタカアワダチソウ	<i>Solidago canadensis var. scabra</i>	帰化
19	タチアワユキセンダングサ	<i>Bidens pilosa var. radiata</i>	帰化
20	ネバリノギク	<i>Aster novae-angliae</i>	—
21	ハリエンジュ(ニセアカシア)	<i>Robinia pseudoacacia</i>	栽培
22	ハルザキヤマガラシ	<i>Barbarea vulgaris</i>	—
23	ハルジオン	<i>Erigeron philadelphicus</i>	—
24	ヒメジョオン	<i>Erigeron annuus</i>	帰化
25	ポタンウキクサ	<i>Pistia stratiotes</i>	帰化
26	ホテイアオイ	<i>Eichhornia crassipes</i>	栽培、帰化

#### 4) 非推奨種・駆除対象種カルテ

##### 記載項目について

- ・和名、学名
- ・別名、方言
- ・指定状況（特定外来生物、生態系被害防止外来種、沖縄県対策外来種リスト等）
- ・生育型（高木、中木、低木、草本類、地被類、つる性）
- ・原産・分布（在来種、外来種、園芸種）
- ・見た目の特徴
- ・環境への影響

カエンボク

ノウゼンカズラ科

*Spathodea campanulata*

**指定状況**

世界の侵略的外来種ワースト 100

**別名** アフリカンチューリップ

**方言名** -

**生育型** 高木 常緑広葉樹



**原産** 熱帯アフリカ、西アフリカ

**分布** -

**見た目の特徴**

枝の先端にチューリップ状の花が咲く。

**用途**

公園樹、街路樹

**環境への影響**

園芸目的で熱帯、亜熱帯の各地に導入された。パイオニア性や多産性、強靱な生命力といった侵略的外来種特有の特徴を有し、実際アメリカ、オーストラリアなど太平洋各地で野生化している。ハワイなど多数の固有種からなる植物相を有する太平洋の島嶼部の生態系への侵入が懸念されている。日本では沖縄など暖地に植栽されている。

カユプテ

フトモモ科

*Melaleuca leucadendra*

**指定状況**

世界の侵略的外来種ワースト 100

**別名** -

**方言名** -

**生育型** 高木 常緑広葉樹



**原産** マレーシア、オーストラリア西部

**分布** 東南アジア

**見た目の特徴**

樹皮はシラカバに似て灰白色で紙のように剥がれ落ちる。内皮はコルク質。

**用途**

街路樹、庭園樹、公園樹

精油には芳香があるので、アロマセラピーに用いられる。

**環境への影響**

フトモモ科植物の例に漏れず、成長に大量の水を必要とするので、フロリダの沼沢地を乾燥させるため、ヘリコプターで種子が散布された。そこから育った木が大量の種子をばら撒き、果てはエバーグレイズ国立公園にまで侵入し、在来生物をおびやかす存在となった。

ソウシジュ

マメ科

*Acaci confusa*

**指定状況**

沖縄県対策外来種リスト：対策種

生態系被害防止外来種リスト：重点対策外来種

**別名** タイワンアカシア

**方言名** ソーシギ、ショーシギー

**生育型** 高木 常緑広葉樹



**原産** フィリピン

**分布** 台湾、東南アジア

沖縄には明治時代に台湾より導入

**見た目の特徴**

小さな球状の花が多数集まって咲く。

**用途**

街路樹、公園樹

**環境への影響**

生長は早く、萌芽力も強い。九州南端以南で、荒廃地の造林や、耕地防風林を兼ねた緑肥木として導入。台湾では街路樹、造林用に植栽が多い。海外では薬用や食用にされ、材木も利用される。海外で侵略的とされ、南西諸島や小笠原諸島で野生化している。生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所での利用は、可能な限り避けることが望ましい。

タイワンモクゲンジ

ムクロジ科

*Koelreuteria elegans* var. *formosana*

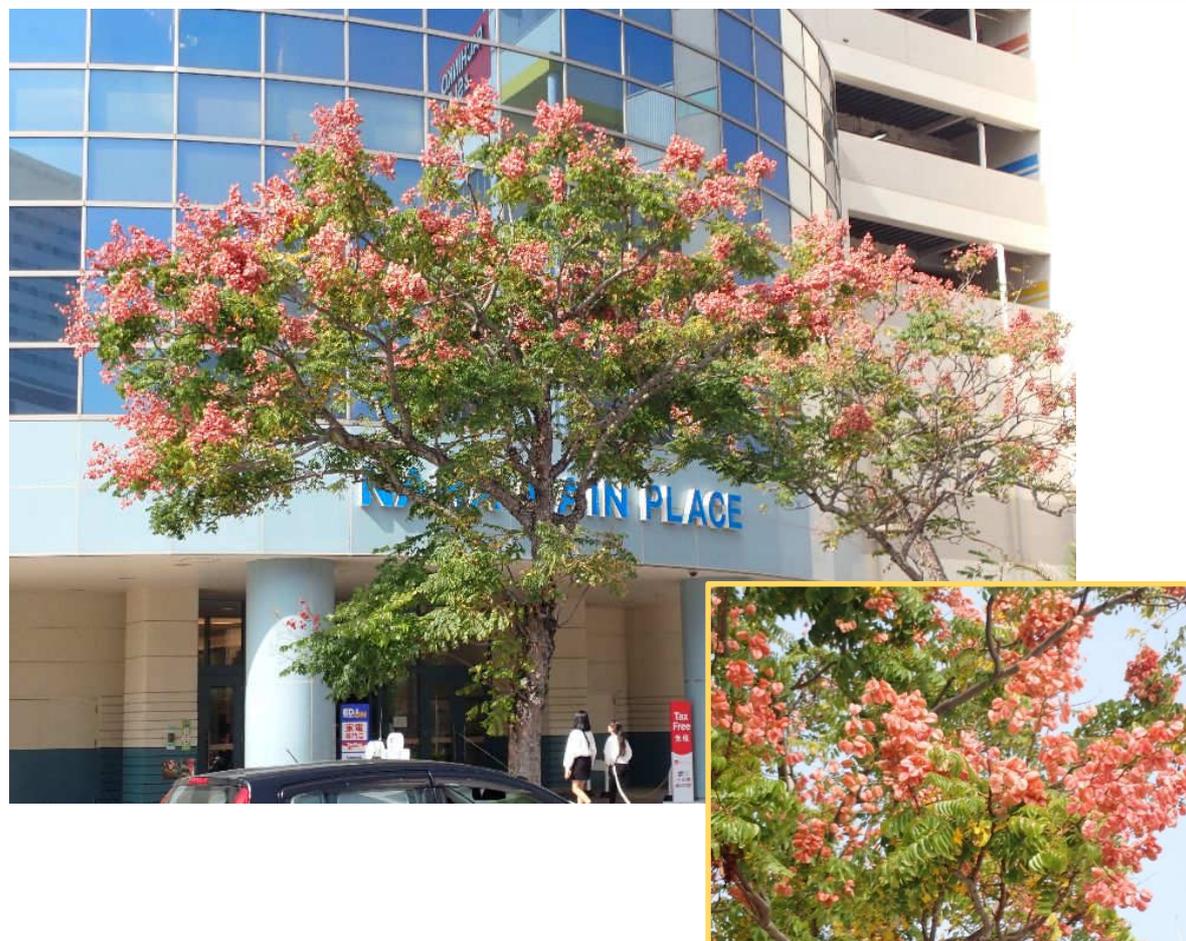
指定状況

なし

別名 タイワンセンダンボタイジュ

方言名 -

生育型 高木 落葉広葉樹



原産 台湾

分布 -

沖縄には昭和 50 年代後半に台湾から導入

見た目の特徴

用途

黄色の花が咲く。その後、桃色の果実を付ける。  
街路樹、公園樹

環境への影響

性質は強健で生育も旺盛であるため、ソウシジュと同様に、栽培木が逸出する可能性がある。生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所での利用は、可能な限り避けることが望ましい。

**トクサバモクマオウ****モクマオウ科*****Casuarina equisetifolia*****指定状況**

沖縄県対策外来種リスト：対策種

生態系被害防止外来種リスト：重点対策外来種

**別名** トキワギョリュウ、モクマオウ

**方言名** モクモー、メリケンマツ

**生育型** 高木 常緑広葉樹



**原産** オーストラリア

**分布** アフリカ南部、北アメリカ南東部、カリブ海

沖縄には明治初期に導入

**見た目の特徴**

針葉状に見える葉が密生する。

**用途**

防風樹、防潮樹、街路樹

**環境への影響**

砂防林、防風林、肥料木、街路樹、公園樹として植栽された。材は薪炭用に、樹皮のタンニンが薬用に、海外では染料に利用される。

日本では、地上戦で焦土となった沖縄の緑化樹として積極的に取り入れられた。緑化植物として早期緑化（崩壊地やのり面等の緑化）の観点から非常に優れていることから、利用されていた。

海外で侵略的とされ、小笠原諸島や南西諸島で問題とされている。生物多様性の保全上重要な地域での利用は、可能な限り控える等の配慮が必要である。

ハリエンジュ

マメ科

*Robinia pseudoacacia*

**指定状況**

生態系被害防止外来種リスト：産業管理外来種  
日本の侵略的外来種ワースト 100

**別名** ニセアカシア

**方言名** -

**生育型** 高木 落葉広葉樹



出典：最新 日本の外来生物



出典：最新 日本の外来生物

**原産** 北アメリカ

**分布** ヨーロッパ、アフリカ、アジア、オーストラリア、南アメリカ  
明治8年に渡来し、北海道、本州、四国、九州、琉球に分布

**見た目の特徴**

房状に垂れ下がった白い花を咲かせる。花は強い芳香がある。

**用途**

庭園樹、街路樹、砂防林、薪炭、蜜源  
アカシア蜂蜜として単花蜜で高品質な蜂蜜が生産されるため、養蜂業においては最重要蜜源植物のひとつ。

**環境への影響**

河川を中心に分布を拡大しており、北海道他9県で、生態系に影響を及ぼす種類等にあげられている。種子が風や水で拡散されていると考えられている。こうした拡散のおそれに対応するほか、生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある地域では利用を避けることが望ましい。

ギンネム

マメ科

*Leucaena leucocephala*

**指定状況**

沖縄県対策外来種リスト：対策種

生態系被害防止外来種リスト：重点対策外来種

世界の侵略的外来種ワースト 100

**別名** ギンゴウカン、タマザキセンナ

**方言名** -

**生育型** 低木 落葉広葉樹



**原産** 中央・南アメリカ

**分布** ヨーロッパ南部、アフリカ、アジア、オーストラリア、北アメリカ、太平洋諸島、インド洋諸島、大西洋諸島

沖縄には明治時代末期以降にスリランカから導入

**見た目の特徴**

**用途**

鳥の羽のような葉を持ち、梵天に似た白い花を咲かせる。

緑化、緑肥、飼料、砂防、薪炭材、パルプ用材

**環境への影響**

亜熱帯から熱帯の日当たりの良い道端や原野、林縁に生育する。やせ地でも育つが、土の浅いところでは樹高1～2mで止まる。小笠原諸島や沖縄では、植栽地から周辺の空地や道路沿いの攪乱地等に侵入し、放棄された畑や宅地等に急速に広がった。

かなり深くに根を下ろし、その根から水を吸い上げるため旱魃に強い。マメ科である本種は根に空中窒素固定作用を有する根粒菌を共生させているため、貧栄養の状態であっても極端に成長が早い。さらにアレロパシー物質のミモシンを分泌するため、すぐさま本種のみで林を形成して他種を駆逐し、優占種となるべき当該地域の固有植物群への遷移を疎外している。日本では、沖縄県や小笠原諸島に導入されたが、本種の好む日当たりの良い空き地や、耕作放棄された田畑は大抵本種に占拠されており、在来固有種の生育を阻害している。

海外で侵略的とされ、小笠原諸島や奄美地域で在来種との競合、駆逐が危惧されている。生物多様性の保全上重要なこうした地域に侵入するおそれのある場所での利用は、可能な限り避けることが望ましい。

**アメリカハマグルマ****キク科*****Sphagneticola trilobata*****指定状況**

沖縄県対策外来種リスト：重点対策種

生態系被害防止外来種リスト：緊急対策外来種

世界の侵略的外来種ワースト 100

**別名** ミツバハマグルマ、ウエデリア**方言名** -**生育型** 草本 多年草**原産** フロリダ南部～熱帯アメリカ**分布** アフリカ南部、熱帯アジア、太平洋諸島

沖縄には 1970 年代初期に渡来

**見た目の特徴**

黄色の花を多数咲かせ、地表を密に覆う。

**用途**

法面等の被覆用やつり鉢に利用される。

**環境への影響**

農耕地、海岸、自然林、植林地、草原、河原、低木林、市街地に生育する。日向を好むが耐陰性もある。日本では、南西諸島の隆起珊瑚礁で猛繁殖しており、畑地の雑草となっている。

海外で侵略的な外来種とされ、日本でも南西諸島や小笠原諸島等で繁殖している。在来種ハマグルマ *Melanthera prostrata* との交雑が懸念され、遺伝的攪乱のおそれが生物多様性の保全上重要な地域に侵入するおそれのある場所には、持ち込まない。

**オオキンケイギク****キク科*****Coreopsis lanceolata*****指定状況**

外来生物法：特定外来種

沖縄県対策外来種リスト：対策種

生態系被害防止外来種リスト：重点対策外来種

日本の侵略的外来種ワースト 100

別名 -

方言名 -

生育型 草本 多年草

**原産** 北アメリカ**分布** 世界各地

明治中期に渡来。北海道～九州、琉球、小笠原に分布

**見た目の特徴**

黄色の頭状花は、舌状花と数十枚の管状花が集まって1つの花に見える。

**用途**

園芸植物

**環境への影響**

河川敷、道路沿い、海岸などに大群落を作る。

園芸植物として渡来。ワイルドフラワー緑化等に使用されていた。積極的な移植が進められた結果、河川敷や線路際などを占有し、在来種を駆逐している。再生力が強く刈り取りに耐え、種子は数年生存するために根絶が難しい。

本種は特定外来生物に指定されており、利用は規制されている。

シチヘンゲ

クマツヅラ科

*Lantana camara*

**指定状況**

沖縄県対策外来種リスト：対策種

生態系被害防止外来種リスト：重点対策外来種

世界の侵略的外来種ワースト 100

**別名** ランタナ

**方言名** ヒチヘンジ

**生育型** 低木 常緑広葉



**原産** 北アメリカ南部～熱帯アメリカ

**分布** ヨーロッパ南部、アフリカ、アジア、オーストラリア、北アメリカ、南アメリカ、大西洋諸島、インド洋諸島、太平洋諸島

江戸時代末期（1865年）に園芸植物として渡来。本州（関東以西）、四国、九州、琉球、小笠原で逸出。

**見た目の特徴**

花は、黄色から橙色、赤色に変化する。

**用途**

花壇、公園樹、庭園樹、街路樹

**環境への影響**

市街地、道端、牧草地、畑地、荒地、海岸、河原、低木林、自然林、二次林、原野、湿地等に生育する。日当たりを好むが、多少の日陰でも生育する。

海外で侵略的な外来種とされ、日本でも野生化している。園芸品種の中には結実しない種類もあるので、温暖な重要地域では、こうした種類を用いる。

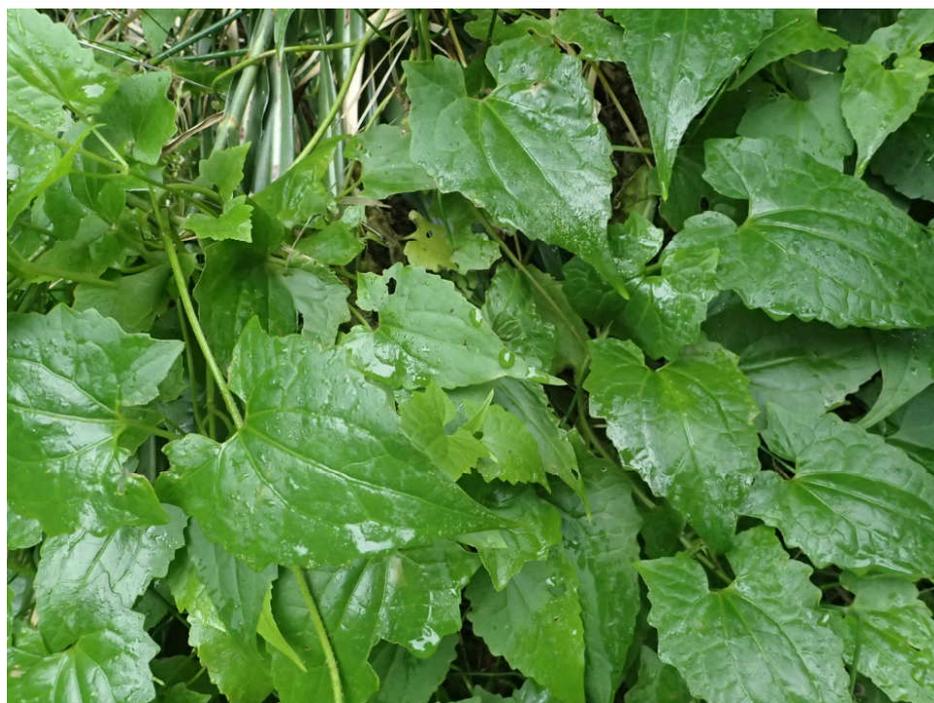
**ツルヒヨドリ****キク科*****Mikania micrantha*****指定状況**

外来生物法：特定外来種

沖縄県対策外来種リスト：重点対策種

生態系被害防止外来種リスト：重点対策外来種

世界の侵略的外来種ワースト 100

**別名** ツルギク、ミカニア・ミクランサ**方言名** -**生育型** つる性種 多年草**原産** 熱帯アメリカ**分布** 熱帯アジア、北アメリカ、南アメリカ、インド洋諸島、太平洋諸島

沖縄には、1984年にうるま市の天顔川河口付近で発見。本島中部一帯で繁茂し、西表島にも侵入した。

**見た目の特徴**つるで絡みつきながら、厚い藪を形成し  
マント状に覆いながら広がる。小さな白  
い花の集合花を付ける。**用途**

-

**環境への影響**

畑地、樹園地、牧草地、路傍、荒地などに生育する。周年にわたって開花する。日陰地でも日当たりのよい所と同様に生育がよい。

イネ、牧草、ゴム、チャなどのプランテーションで問題になる。

インドでは第二次大戦後に、飛行機の離着陸場のカモフラージュに利用され、侵入した。日本での栽培は未確認。

## 5) 緑地利用者アンケート結果概要

近年、緑地の設計や管理に関して、近隣住民をはじめとした緑地利用者から意見や希望が寄せられる機会が増えている。また、緑地の維持管理については、ある程度、近隣の住民や事業者に委ねられているケースもある。

市街地などの緑地において緑の回廊を具体化し、有効かつ良好な状態に保つには、利用者がそうした緑地を前向きに捉え、積極的に関わる姿勢を引き出せるようにする必要がある。このため、利用者、近隣住民などを対象として、緑地に関する意識や意向を把握するためのヒアリング調査を実施した。

### 調査概要

調査地点	末吉公園、新都心公園、若狭公園
調査対象	各公園の利用者 計 92 人
調査方法	対面によるヒアリング調査

### 設問 1 ご回答者についておたずねします

#### (1) 年 代

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
2%	9%	26%	14%	17%	10%	21%

#### (2) 性 別

男性	女性	その他	回答しない
52%	48%	0%	0%

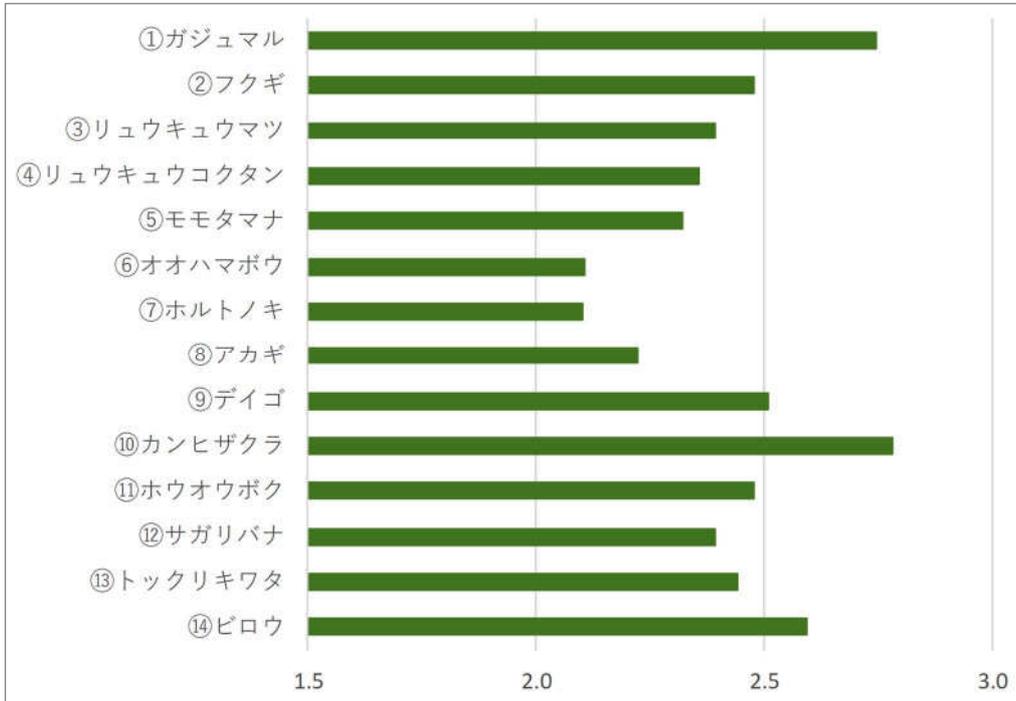
#### (3) 居住地

徒歩圏内	その他 那覇市内	沖縄県内 (那覇市以外)	沖縄県以外
55%	34%	10%	0%

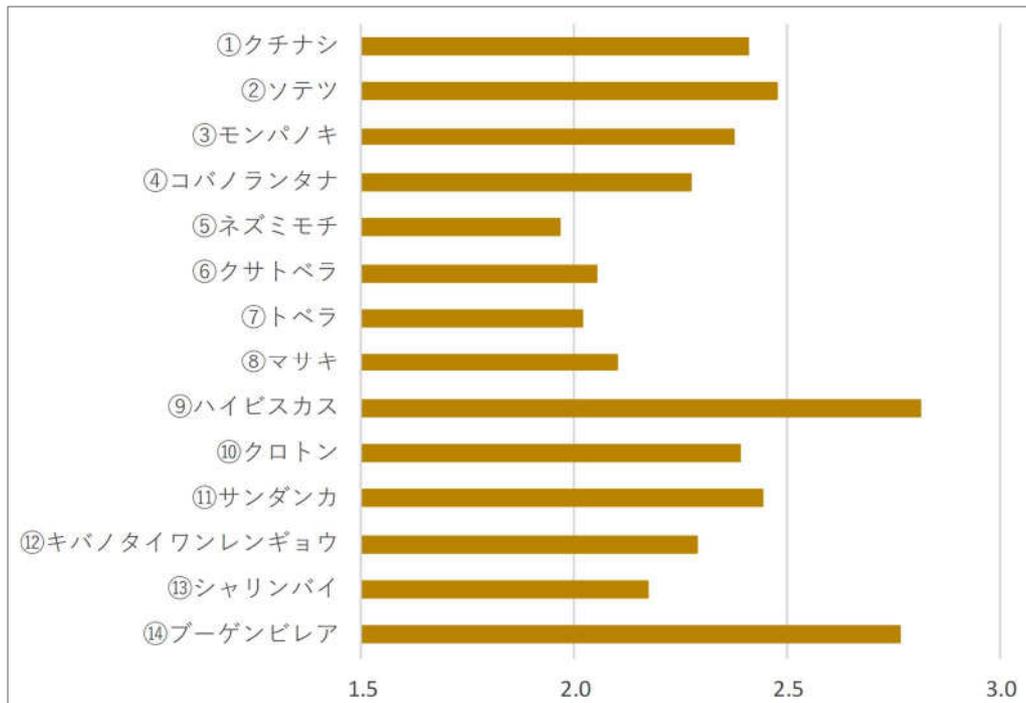
ここでは、緑地でよく見られる樹種に関する好みを尋ねた設問の結果のみを掲載する。次項のグラフは、3公園の結果を合計したものである。

**設問** 公園や道路などの緑地に植えられているさまざまな木について、あなたの好み「1 好き、2 どちらともいえない、3 好きではない」の3段階で教えてください。

(1) 高木



(2) 低木



3公園の間で大きな差は認められなかったが、若狭公園では年配の回答者が多く、高木ではアカギやデイゴ、低木ではクチナシ、ソテツ、モンパノキ、クロトンなどベーシックな種や目立つ花を咲かせない種も好まれていた。

新都心公園において、高木ではアカギやデイゴの人气が低めで、低木については他の公園よりも好み不明瞭だった。回答者の年齢層が割と若いことが、要因として考えられる。また、都会的な感覚を持つ人が多いという可能性もある。

## 6) 用語説明

緑の回廊形成を進めてゆくには、生物や生態系に関する知識と、造園に関する知識の両方が求められます。本ガイドラインではそれらの解説などをしてしていますが、中にはあまり一般的ではない語や、分野や立場、人によって定義が異なり、互いに誤解を生じやすい語も含まれます。このためそれらの用語を列挙し、本ガイドラインにおける意味を記載しています。

用語集には、平成 30 年度末の時点では環境省が公表している「外来種被害防止行動計画 用語集」から本ガイドラインに関係が深い項目を抜粋したものを掲載します。そのうえで、平成 31 年度以降に関連情報の収集と開発に関わる事業者との意見交換などを通して掲載すべき用語の取捨選択、説明文の執筆を進め、内容の充実と実用性の向上を図るものとします。

### 環境省「外来種被害防止行動計画」

<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/actionplan.html>

### 環境省「外来種被害防止行動計画 用語集」

<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/actionplan/yougo.pdf>

## 沖縄県「緑の回廊形成ガイドライン」用語集

### ア行

---

#### 遺棄

飼育・栽培している動植物を捨てる、置き去りにする、管理を放棄するといった行為のこと。「逃がしてあげる」ことも遺棄に該当する。

#### 逸出・逸走

飼育している動物が逃げ出すこと。逸走も同義。植物の場合は、栽培している植物が管理下から外れて野生化すること。

#### 遺伝的攪乱

長い歴史の中で形成されたある種の遺伝構造や遺伝的多様性が、人為的に持ち込まれた個体との交雑によって乱されること。

#### 遺伝的形質

遺伝子のもつ情報にしたがって親から子に遺伝する生物の形や性質。

#### 遺伝的多様性

同一種において、集団や個体が示す遺伝的な違い。種のなかで、個体ごとの遺伝的な違いが多くみられることを‘遺伝的に多様である’という。

#### 意図的導入

外来種を人為によって自然分布域外に意図的に移動または放出すること。

#### 移入種

外来種と同義だが、生態学では個体群の自然分布拡大の場合にも用いられており、人為による分布拡大であることを明確にするため、現在は用いられる機会が少ない。

### カ行

---

#### 外来種

導入（意図的・非意図的を問わず人為的に、過去あるいは現在の自然分布域外へ移動させること。導入の時期は問わない。）によりその自然分布域（その生物が本来有する能力で移動できる範囲により定まる地域）の外に生育又は生息する生物種（分類学的に異なる集団とされる、亜種、変種を含む）。

#### 外来種被害予防三原則

外来種問題を引き起こさないための私たち一人一人のとるべき姿勢を表した標語。「入れない・捨てない・拡げない」。

## 外来生物

一般的には、「外来種」とほぼ同義で用いられている事が多い。外来生物法では、「海外から我が国に導入されることによりその本来の生息地又は生育地の外に存することとなる生物」と定義されている「法律用語」。つまり、国外から日本に導入されるもののみを対象としており、いわゆる国内由来の外来種は含まない。

## 環境省レッドリスト

日本の絶滅のおそれのある野生生物種のリスト。日本に生息又は生育する野生生物について、生物学的観点から個々の種の絶滅の危険度を評価し、絶滅のおそれのある種を選定してリストにまとめたもの。

## 競争・競合

同種または異種の複数個体が、同じ資源（食物、空間など）を求め、かつその供給量が限られているときに生じ、相手に対して負の影響を与えるような相互作用のこと。

## 群集（生物群集）

ある地域に生息している複数の生物種の個体群の集合で、単なる個体群の寄せ集めではなく、生物種間のさまざまな相互関係によって組織化された集団の単位。

## 群落（植物群落）

同種または異種の植物が近接して生育し、全体として一つのまとまった性質をもつ植物の集団。

## 交雑

雑種が形成されるような遺伝的組成の異なる個体間の交配。

## 国外由来の外来種

「外来種」のうち、我が国に自然分布域を有していない生物種。

## 国内由来の外来種

我が国に自然分布域を有している（在来種）が、その自然分布域を越えて国内の他地域に導入された生物種。

## 個体群

ある地域に棲む同種個体のすべてを含んだもの。地域の境界は研究目的に応じて任意的に決められることが多く、人為的にある場所に集められたものを個体群と呼ぶ。

## 固有（亜）種

分布が特定の地域に限定される種もしくは亜種。この場合、「特定の地域」には、国レベル、都道府県レベル、地域レベルなどさまざまなとらえ方がある。例えば、ヤンバルクイナは、日本の固有種であるだけでなく、沖縄県沖縄本島、やんばる地域の固有種である。

## サ行

---

### 在来種

もともとその生息地に生息していた生物種の個体および集団。

### 自然再生

過去に損なわれた自然環境を取り戻すことを目的として、関係行政機関、関係地方公共団体、地域住民、NPO、専門家等の地域の多様な主体が参加して、自然環境を保全し、再生し、創出し、またはその状態を維持管理すること。

### 自然侵入促進工

周辺に生育する自然植生などから自然散布（風・動物等）にて侵入し、落ちた種子がのり面上で発芽・定着することにより、植生回復を図る工法。

### 植物検疫（輸入）

海外から植物を持ち込むことに伴い、我が国の有用な植物に損害を与えるおそれのある病害虫が国内に侵入してまん延しないように、輸入の時点で植物の検査を行うこと。検査の結果、病害虫の付着等が認められた場合には、消毒等の必要な措置をとること。

### 侵略的外来種

外来種のうち、わが国の生態系、人の生命・身体、農林水産業等への被害を及ぼす又は及ぼすおそれがあるなど、特に侵略性が高く、自然状態では生じ得なかった影響をもたらすもの。

### 生活史

生物個体の一生の特徴を出生から成長、死亡、繁殖の時期とやり方に注目し、外観したもの。

### 生息域外保全

絶滅のおそれのある野生動植物種を、その自然の生息域外において、人間の管理下で保存すること。

### 生息域内保全

生態系及び自然の生息域を保全し、存続可能な種の個体群を自然の生息環境において維持し、回復すること。

### 生態系

ある地域に棲むすべての生物とその地域内の非生物的環境をひとまとめにし、主として物質循環やエネルギー流に注目して、機能系として捉えた生産者、消費者、分解者、非生物的環境で構成される。エコシステム。

## 生態系、生息地、種を脅かす外来種の予防、導入、影響の緩和に対する指針原則

正式名称は「Alien species that threaten ecosystems, habitats or species」という。2002年（平成14年）4月に開催された生物多様性条約第6回締約国会議で採択され、締約国において移入種（外来種）への対応が求めている。日本では、本指針原則が採択された直後に「移入種（外来種）への対応方針について」をとりまとめ、その後外来生物法の成立に至っている。

## 生態系サービス

暮らしを支える食料や水の供給、気候の安定など、多様な生き物が関わり合う生態系から得られる恵みのこと。

## 生物間相互作用

ある生物の個体群がほかの生物の個体群におよぼす作用と反作用のこと。被食－捕食関係、競争関係、共生関係などがある。

## 生物多様性

生きものたちの豊かな個性とつながりのこと。生物多様性条約では、「すべての生物の間の変異性を指すものとし、種内の多様性、種間の多様性および生態系の多様性を含む」と定義されている。

## 生物多様性国家戦略

生物多様性国家戦略とは、生物多様性条約及び生物多様性基本法に基づく、生物多様性の保全及び持続可能な利用に関する国の基本的な計画。わが国は、平成7年に最初の生物多様性国家戦略を策定し、これまでに4度の見直しを行っている。

## 生物多様性保全上重要な地域

国土の地域ごとの生物学的特性を示す代表的、典型的な生態系や、多様な生物の生息・生育の場として重要な地域のこと。重要地域の保全のための地域指定制度としては、自然環境保全法、自然公園法、鳥獣保護管理法、種の保存法、文化財保護法、森林法、都市緑地法等があり、これらの法律に基づき指定された地域のほか、重要湿地500に指定された地域など。

## 絶滅危惧種

絶滅のおそれのある野生動植物種のこと。我が国では、環境省レッドリストにおいて、次の3つのカテゴリー（分類群によっては、IA類とIB類をまとめて絶滅危惧I類としている）に掲載されている種を絶滅危惧種としている。

【絶滅危惧IA類】ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高い種。

【絶滅危惧IB類】IA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高い種。

【絶滅危惧II類】絶滅の危険が増大している種。現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧I類」のランクに移行することが確実と考えられる種。

---

## タ行

### 地域性種苗

地域性系統をベースに生産された種苗。

### 定着

外来種が新しい生息地で、継続的に生存可能な子孫をつくることに成功する過程のこと。

### 導入

意図的・非意図的を問わず人為的に、過去あるいは現在の自然分布域外へ移動させること。導入の時期は問わない。

### 特定外来生物

生態系等に係る被害を及ぼし、又は及ぼすおそれがあるものとして、外来生物法によって規定された外来生物。生きているものに限られ、卵、種子、器官などを含む。同法で規定する「外来生物」は、海外からわが国に導入されることによりその本来の生息地又は生育地の外に存することとなる生物を指す。

### 動物検疫（輸入）

海外から家畜の伝染性疾病の病原体が国内に侵入し、まん延しないように、国内の空海港において動物、畜産物等の検査を行うこと。

---

## ナ行

### ニッチ（生態的地位）

種あるいは個体群の、自然における位置を示す概念。生息場所や生物的環境、食う食われるの関係などにおいて、生物の占めうる場所や役割のこと。[広辞苑]

---

## ハ行

### 非意図的導入

人や物の移動に伴って、意図せず外来種（移入種）が自然分布域外に運ばれること。

### 表土利用工

森林や草原などにおける表土内の埋土種子を活用した緑化で、造成箇所及び周辺地域の樹林地や草地で採取した表土を直接のり面に貼り付ける、植生基材と混ぜて吹き付けるなどして緑化する工法。

### 防除

捕獲、採取又は殺処分、被害防止措置の実施等。

## 保護林

原生的な森林生態系からなる自然環境の維持、動植物の保護、遺伝資源の保存、森林施業及び管理技術の発展、学術研究等に資することを目的として、区域を定め、自然環境の保全を第一とした管理経営を行うことにより、保護を図っている国有林野のこと。

---

## マ行

### 埋土種子

発芽力を保持したまま、土の中で休眠状態にある種子。

### 未判定外来生物

外来生物法において、特定外来生物とは別に、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼす疑いがあるか、実態がよく分かっていない海外起源の外来生物。輸入する場合は事前に主務大臣に対して届け出る必要がある。

---

## ヤ・ラ・ワ行

### 野生復帰

生息域外におかれた個体を自然の生息地（過去の生息地を含む）に戻し、定着させること。

## 7) 参考文献

- 1)天野鉄夫・沢岷安喜. 図鑑琉球列島有用植物誌. 沖縄, 有限会社沖縄出版, 1989, 470p
- 2)池原直樹. 沖縄植物野外活用図鑑. 第2巻 栽培植物. 多和田真淳. 沖縄, 新星図書出版, 1979, 295p
- 3)池原直樹. 沖縄植物野外活用図鑑. 第4巻 海辺の植物とシダ植物. 多和田真淳. 沖縄, 新星図書出版, 1979, 303p
- 4)池原直樹. 沖縄植物野外活用図鑑. 第5巻 低地の植物. 多和田真淳. 沖縄, 新星図書出版, 1979, 302p
- 5)池原直樹. 沖縄植物野外活用図鑑. 第6巻 山地の植物. 多和田真淳. 沖縄, 新星図書出版, 1979, 303p
- 6)池原直樹. 沖縄植物野外活用図鑑. 第7巻 シダ植物～まめ科. 多和田真淳. 沖縄, 新星図書出版, 1989, 286p
- 7)池原直樹. 沖縄植物野外活用図鑑. 第8巻 ばら科～きつねのまご科. 多和田真淳. 沖縄, 新星図書出版 1989, 278p
- 8)一般財団法人自然環境研究センター. 最新 日本の外来生物. 東京, 株式会社平凡社, 2019, 592p
- 9)沖縄県. 花木類栽培マニュアル. 沖縄, 沖縄県農林水産部, 2010, 96p
- 10)沖縄県. 緑化樹木のしおり. (社)沖縄県造園建設業協会. 沖縄, 沖縄県土木建築部道路維持課, 1986, 263p
- 11)神戸市. 街路樹再整備方針 平成29年4月. 兵庫, 神戸市建設局公園部整備課, 2018, 13p
- 12)(財)海洋博覧会記念公園管理財団. 沖縄の都市緑化植物図鑑. 建設省土木研究所環境部緑化生態研究室. 第1版, 沖縄, (財)海洋博覧会記念公園管理財団, 1997, 398p
- 13)社団法人 沖縄建設弘済会. 沖縄・緑化樹木図鑑～道が拓く地域文化～. 沖縄総合事務局開発建設部. 改訂版, 沖縄, 社団法人 沖縄建設弘済会, 1996, 180p
- 14)中島宏. 緑化・植栽マニュアル 計画・設計から施工・管理まで. 東京, 社団法人経済調査会, 2004, 535 p
- 15)中須賀常雄・高山正裕・金城道男. 沖縄のヤシ図鑑. 沖縄, 宮城正勝((有)ボーダーインク), 1992, 150 p
- 16)初島住彦. 琉球植物誌 追加・訂正版. 沖縄, 沖縄生物教育研究会, 1990, 1002p
- 17)比嘉正一・長嶺邦雄. 改訂・沖縄県の蝶－記録された島と食草－. 沖縄, 沖縄昆虫同好会, 2019, 218 p
- 18)與那原正勝. やんばる樹木観察図鑑. 沖縄, 株式会社沖縄教販, 2010, 360p
- 19)Diamond, J. M. (1975). The island dilemma: lessons of modern biogeographic studies for the design of natural reserves. *Biological Conservation*. Los Angeles, Elsevier, 1975, p.129-146, (volume7, issue2)

- 20)一ノ瀬友博. 154.公園緑地における鳥類の出現状況と公園緑地の植生及び周辺土地利用との関係に関する研究－都市域における生態的ネットワーク計画の構築のための基礎的研究-. 2002 年度第 37 回日本都市計画学会学術研究論文集. 2002, 37 巻, p.919-924
- 21)一ノ瀬友博. 大阪市中心部の街路樹と越冬期の鳥類の出現状況の関係. ランドスケープ研究. 2006, 69 巻 5 号, p.537-540
- 22)一ノ瀬友博・加藤和弘. 埼玉県所沢市の孤立樹林地における鳥類群集の分布に影響を及ぼす諸要因について. 造園雑誌. 1994, 57 巻 5 号, p.235-240
- 23)福井亘・西野冨. 京都市中心部の街路樹と鳥類出現との関係について. 日緑工誌,J.Jpn Soc.Reveget Tech. 2014, 40 巻 1 号, p.223-226
- 24)森本豪・加藤和弘. 緑道による都市公園の連結が越冬期の鳥類分布に与える影響. ランドスケープ研究. 2005, 68 巻 5 号, p.589-592
- 25)沖縄県 農林水産部森林資源研究センター. “有用植物要覧”. 沖縄県. 2016-01-14.  
<https://www.pref.okinawa.jp/site/norin/shinrinken/kikaku/yuyou.html>, (参照 2020-02)
- 26)環境省自然環境局野生生物課外来生物対策室. “生態系被害防止外来種リスト：掲載種の付加情報”. 日本の外来種対策  
<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/iaslist.html>, (参照 2020-02)
- 27)国立研究開発法人 国立環境研究所. “侵入生物データベース：維管束植物”.  
[https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/toc8\\_plants.html](https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/toc8_plants.html), (参照 2020-02)
- 28)非営利団体ウィキメディア財団. “ウィキペディア:世界の侵略的外来種ワースト 100”. ウィキペディア フリー百科事典.  
[https://ja.wikipedia.org/wiki/世界の侵略的外来種ワースト 100](https://ja.wikipedia.org/wiki/世界の侵略的外来種ワースト_100), (参照 2020-02)
- 29)非営利団体ウィキメディア財団. “ウィキペディア:日本の侵略的外来種ワースト 100”. ウィキペディア フリー百科事典.  
[https://ja.wikipedia.org/wiki/日本の侵略的外来種ワースト 100](https://ja.wikipedia.org/wiki/日本の侵略的外来種ワースト_100), (参照 2020-02)



**沖縄県**  
**緑の回廊形成ガイドライン**  
**令和2年3月策定**

発行  
沖縄県 環境部  
環境再生課

〒900-8570  
沖縄県那覇市泉崎 1-2-2  
TEL:098-866-2408  
FAX:098-866-2064  
(環境再生課直通)